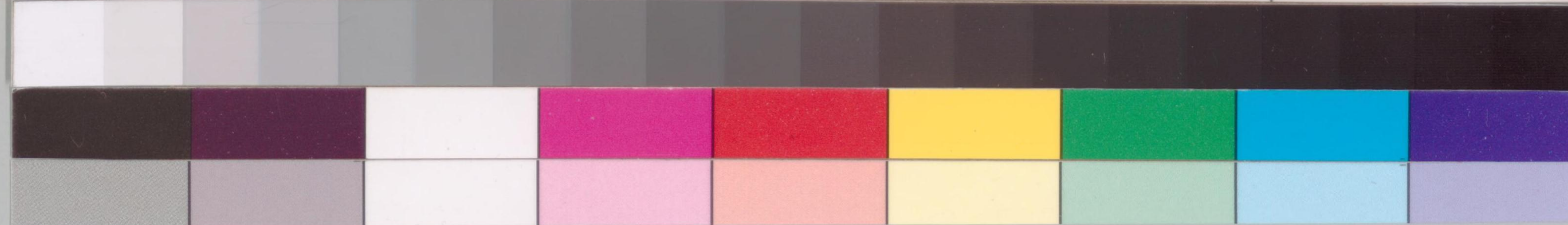


215773

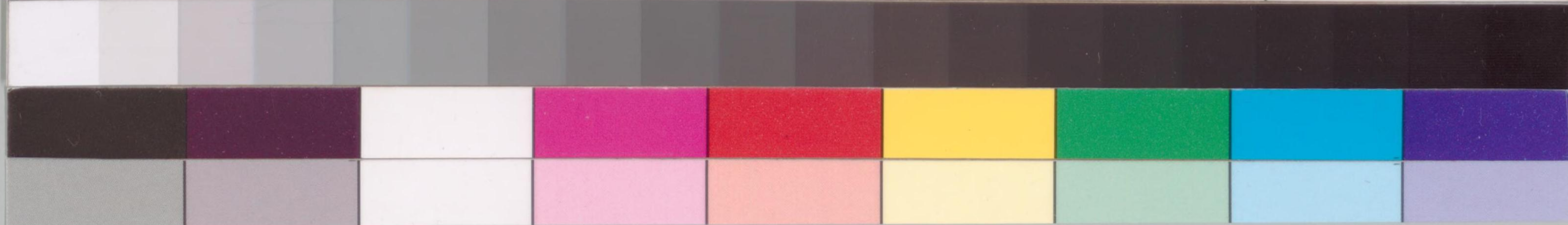
6

昭和25年10月18日



臣博文叨リニ皇職ヲ瀆シ深ク時難ヲ  
思フ竊カニ惟フ今日ノ事、實ニ曠古ノ  
世運ニ際シ風潮ノ勢、浸クニ變革ノ機  
ニ臨メリ而シテ新進輕躁ノ説、已ニ後  
ヲベカラズ舊貫前例亦一槩ニ遵守シ  
難シ機ヲ迎ヘ變ヲ制シ調護方アリ措  
置宜キヲ得、漸クニ進為スル所アルニ  
非ザルヨリハ万世久安ノ基、其レ將々  
何ゾ望マシ乎蓋中興ノ業、僅ニ其成ル  
ヲ告ク而シテ特事俄カニ危機ニ逼ル  
者其因テ来ル所ニアリ臣請フ先ツ其  
ノ因ル所ヲ論シテ然後ニ措置ノ宜キ  
ニ及バン

[Blank page with vertical lines]



第一、維新ノ政、舊ヲ改メ新ヲ敷ク其大ナル者ヲ廢藩置縣トス廢藩ノ舉實ニ己ムヲ得ザルニ出ツ而シテ兵制ノ變藩國ノ士族、從テ其祿ヲ失ナヒ產ヲ削ラル、者全國ヲ舉テ幾十萬是レ皆新政ヲ悅ハズシテ動モスレハ舊貫ヲ慕ヒ不平ヲ鳴ラシ不祥ヲ訴フルノ情アル丁ラ免レズ其極一變シテ急激ノ論ヲ唱ヘ政府ニ抗抵シ世變ヲ激成シ以テ自カラ愈ヤスニ至テ而シテ後ニ己マシトス是レ勢ノ由テ來ル所ナリ唯タ士族ノ武門ノ世ニ於ケル實ニ平民ノ上ニ位シ嘗テ常祿ニ食ミ常產ヲ有シ教育素アリ國事自ラ任スルヲ習ト

スルヲ以テノ故ニ其今日ニ至テモ猶好テ政訟ニ從ヒ氣節議論ノ士多クハ其習ヲ出テ勢ト流ニ居リ庶民ノ方向ハ專ラ其麾ク所ヲ視ル之ヲ人身ニ譬フルニ士族ハ猶ホ筋骨ノ如シ平民ハ猶ホ皮肉ノ如シ筋骨ノ所、皮肉之ニ從フ蓋シ士類ノ怨氣團結スルトキハ以テ朝野ヲ阻隔シテ王化ヲ壅塞スルニ足ル今日士族ノ向背ハ己ニ王室ニ純ナラズシテ而シテ天下ノ禍機往々其間ニ伏スル者アリ

第二、一御ノ人心ハ制シ易ク一國ノ物情ハ治メ難シ一國ノ形勢ハ轉シ易ク宇内ノ風氣ハ回ラシ難シ現今ノ世變

ハ宇内大勢ノ推致スル所ニシテ一國  
一州ノ事端ニ非ザルナリ今ヲ距ル  
百年、歐洲变革ノ說、一夕ビ佛朗西ニ行  
ハレシヨリ漸次各國ニ浸淫シ相扶ケ  
相擁シ積テ大勢ヲ成シ凡ソ有政ノ國、  
早晚其変ヲ被ラザル者アルコトナシ  
其舊ヲ変シ新ニ就クニ當テ激シテ乱  
ニ至ル者アリ乱今ニ至テ輾轉シテ未  
タ止マザル者アリ明君賢相、其幾ニ先  
テ其變ヲ制シ一轉シテ固クスル  
者アリ之ヲ要スルニ皆專裁ノ風ヲ棄  
テ人民ト政治ノ權ヲ分ツコトヲ免レ  
ズ今歐洲ノ文物、駸々トシテ我國ニ入  
ル而シテ政体ノ新說亦士庶ノ間ニ行

ハレ、數年ノ間、都鄙ニ漫延シ遠カニ防  
遏スベカラズ、其間、徒ニ紛言ヲ爲シテ  
以テ人聽ヲ聳カス者アリ、輕躁妄作、上  
意ノ在ル所ヲ知ラズ病無キニ呻吟シ  
狂暴人ヲ惑ハス者アリ、其由ル  
所ヲ通觀スルトキハ亦皆寰宇ノ間ニ  
行ハル、風氣ノ及ブ所、譬へハ猶ホ雨  
雷フテ草生スルガ如シ深ク怪ハベキ  
ニ非サルナリ、夫レ、  
以上ニ因ハ則チ皆天步時運ノ致ス所、  
幾シド人事ノ爲ス所ニ非ザルナリ、今  
日ニ在テ政府ノ任ハ方ニ幹旋調護勢  
ニ順ヒ機ニ乘シ之ヲ制スルモ激ニ至  
ラズ之ヲ縱ツモ慢ニ至ラズ進安序ヲ

逐ヒ緩急<sup>ニ</sup>當リ歲月ヲ積累シテ  
以テ標準ニ馴致スルニ在リ其謀慎マ  
ザルベケンヤ

元老院ヲ更張シ元老議官ヲ  
華士族ニ撰フ事

臣竊カニ國會ノ未タ遽カニ起スベカ  
ラズト謂フ臣等自ラ誓フ一毫權ヲ貪  
リ位ヲ固クスルノ念胸中ニ芥蒂スル  
アルニ非ズ唯タ國會ヲ起シテ以テ君  
民共治ノ大局ヲ成就スルハ至テ望ム  
ベキノ事ニシテ又決シテ急躁ヲ以テ  
為スベキ者ニ非ズ先ツ基趾ヲ固クシ  
テ柱礎ヲ構ヘ終ニ屋茨ニ及フ、<sup>ニ</sup>舉行  
ノ次序固ヨリ緩急アリ是レ既ニ

陛下明睿ノ洞照スル<sup>所</sup>多言ヲ待タザル

ナリ

臣慎テ歐洲立憲ノ國ヲ觀察スルニ上  
下兩院ハ猶ホ車ノ兩輪アルガ如シニ  
ツノ者相制シ即チ平衡ヲ持ス其帝國  
ニ在テハ元老院<sup>脚</sup>上ノ設ケ尤モ國ヲ  
保ツノ要用タリ蓋シ歐洲各國或ハ之  
ヲ庶民ノ老成ニ撰ヒ或ハ之ヲ勲望碩  
學ニ取ル而シテ其帝王國ニ在テハ大  
抵之ヲ貴族ニ取ル即チ帝室ヲ扶持シ  
舊章ヲ保守スル所以ナリ  
臣竊カニ以為ラク今ノ時ニ當リ漸進  
ノ道ニ由リ以テ時変ヲ制シ徐クニ釐  
革スル所アラシト欲セハ先ツ元老院

ヲ更張シテ名實相副ハシムルニ若ク  
ハナキナリ元老院ヲシテ名實相副ハ  
シメントセバ之ヲ華士族ニ取ルニ在  
リ明治八年元老院ノ設ケハ實ニ立憲  
漸進ノ  
聖意ニ出ツ而シテホウ大久保諸臣ノ  
大猷ヲ賛襄スルモ亦此レニ倚テ以テ  
朝野ヲ調護スルヲ主トスルニ非ズン  
バアラズ但タ當時創造先ツ其規模ヲ  
定ムルニ止マリ未タ其實用ヲ收ムル  
ニ皇アラス其更張潤飾實以テ名ニ副  
ハシムルニ至テハ仍ホ今日ニ待ツコ  
トアルナリ今天下ノ人物品流ヲ彙論  
スルニ其國事ニ擔當シテ文明ニ率先

タルニ堪ユル者之ヲ士族ニ望マザル  
トシ得ズ而シテ士族ノ位置ハ固ヨリ  
軍シク貴族ノ一部タルベシ誠ニ能ク  
士族ヲ以テ明カニ華族ノ下ニ列シ元  
老議官ハ專ラ華士族ノ中ニ公撰シ旁  
ヲ國家ノ勳舊ト士庶ノ碩學ヲ收用シ  
百人ヲ以テ定員トシ付スルニ俸給ヲ  
以テシ期ヲ定メテ徵集シ凡ソ法律ノ  
文案ハ皆其議ヲ經セシメバ一ニハ以  
テ士族ヲ榮用シテ其報効ヲ收メ永遠  
王室ノ輔翼タラシムベクニハ以テ  
將來ノ為メニ先ツ兩院平衡ノ地ヲ為  
スベク三ニハ以テ朝野ノ平均ヲ保チ  
調護ノ意ヲ失ハズ四ニハ以テ八年ノ

成緒ヲ續ギ先輩ノ遺圖ニ後ヒ漸進ノ  
途轍ヲ履ムベシ

公撰検査官ヲ設クル事

臣博文竊ニ以テ公議ヲ廣ムルノ外更ニ  
族ニ撰ヒ以テ公議ヲ廣ムルノ外更ニ  
公撰検査官ヲ府縣會員ノ中ニ采リ以  
テ財政ヲ公議スルノ漸ヲ開ク此レ亦  
立憲ノ初步トナスベシ  
蓋シ何ノ國ヲ論セズ凡ソ國民ノ政府  
ニ向テ猜嫌ノ心ヲ抱キ官吏ヲ敵視ス  
ルニ至ル者ハ聚ネ其濫用厚歛ヲ疑フ  
ニ非ザルハナシ故ニ立憲ノ國ハ又先  
ツ財政ヲ奉テ國民ト公共負擔スルヲ  
以テ最大ノ務トセザルハナシ我國一

新以来、徳川氏積弊ヲ承ケ加フル

ニ戦乱相繼キ、外交頻繁、非常ノ需メ浩

瀚、賢ヲヒズ而シテ海陸軍ヲ興シ裁判

法ヲ改良シ教育ヲ盛ニシ警察ヲ嚴ニ

シ監獄ヲ建造シ鉄道電信ヲ創メ道路

ヲ開通シ凡ソ以テ人民ニ利シ公益ヲ

啓ク所ノ者國ノ全カヲ盡シテ一時並

ヒ舉ケ又他人ノ一方ニ於テ地租ヲ改

正シテ以テ農民ヲ豊ニシ資本ヲ捐予

シテ以テ百エヲ勸ムル等凡ソ上ヲ損

シテ下ヲ益スルノ事為サザル所ナシ

十年ノ間、國庫窮ヲ告グル專ラ是レニ

由ルナリ蓋シ政府ノ用心ハ一ニ公明

ニ存シ以テ天下ニ對シテ曖昧欺詐ノ

舉アルルニ非ズ以テ後世ニ証明シテ一  
毫瀆乱不經ノ羞アルニ非ズ但夕未夕  
今古ノ変ヲ通觀セザル者好テ當局ヲ  
指摘シ甚シキハ誣ルニ捏造ノ説ヲ以  
テスルニ至ル是レ政府ニ在テ口舌ノ  
辨ズベキ所ニ非ス唯夕誠ヲ啓イテ公  
ラ示シ人民ヲシテ進テ財政ノ精確ナ  
ルヲ証明セシメ以テ情由ヲ了解セシ  
ムルアルノミ  
今暫テク府縣會議員ノ中ニ公撰シ檢  
査員外官トシ予フルニ俸給ヲ以テシ  
官撰検査官ト相平衡シ以テ検査ノ事  
務ニ従事セシムベシ而シテ其權限ノ  
如キハ專ラ會計ノ検査ニ止メ敢テ用

財ノ大政ニ干涉スルヲ許サズ是レ  
一ニハ以テ財政ヲ公議スルノ漸進ノ  
路ヲ為シニハ以テ人民ヲシテ實務  
ニ攪熟セシメ經驗スル所アラシムベ  
シ抑此事若シ果シテ舉行スルニ至ラハ  
行政ノ事前日ニ比スレハ限束スル所  
アルヲ免レズ而シテ諸臣ノ責亦更ニ  
一層ノ重大ヲ加フベク一タヒ制御ノ  
道ヲ誤ルトキハ物議ヲ増シ軋輾ヲ激  
シ以テ事変ヲ促スニ至ルモ亦知ルベ  
カラズ是レ尤モ事前ニ慎重セザルベ  
カラサル者ニシテ其組織權限撰舉閑  
閉ノ方法節目亦皆治安ノ關鍵ニ非ザ





Blank manuscript page with vertical columns and a red seal.

伊藤博文文書

